

TC15のトピックス

TC15 国内委員会 委員長 山野芳昭
同 幹事 若嶋由雄

・ **TC15の変貌** TC15（絶縁材料）は、昨年7月に改組され、従来TC15の元で活動していた旧SC15C（個別絶縁材料）を母体としたTCとして、新たにスタートした。新TC15は電気絶縁材料の製品規格の制定や改訂を主たる目的としている。旧TC15には旧SC15E（試験方法）も活動を行っていたが、旧SC15Eは昨年TC98（絶縁システム）と合体して、新たにTC112を結成した。そのような経緯から、新TC15は旧SC15Cを母体として再結成されるに至ったわけである。

・ **規格の整理と統合を目指した日本提案** 新TC15あるいは旧SC15Cの関与する規格が対象とする製品は、無機材料から天然素材、高分子材料、フィルム、紙、板、棒と多種多様にわたり、それらがそれぞれ別々の規格表として存在している。したがって、旧SC15Cが直接関与する規格数は、個別の規格票を加えると総計200近くになる。このため、5～6年前まで、現有規格のメンテナンスだけでも、毎年40～60件程度をこなさなければならなかった。これは、TCあるいはSCにおいて制定する規格の数がその活動評価のバロメータとなること、そして各WGのメンバーが自社製品を国際規格にのせるという機運が旺盛であったことも原因であったと考えられる。そのため、国内委員会メンバーに大きな負担がかかっていた。また、規格の中にはほとんど日本の国内企業では生産していない製品に関する規格案の審議は、形骸化したものになりつつあった。このような状況に疑問を投げかける目的で、問題点の検討が日本からIECへ提案された。2000年フランクフルトで開催されたTC15AGS会議にてこの議題が取り上げられ、日本からの提案に対して、おなじような状況に置かれていたドイツ等が同調したこともあって、旧SC15Cの委員長に対して関係する規格の統合や廃止を望む方向が打ち出された。その効果もあり、規格の統合等が推し進められ、現在では年間に消化する規格案件は徐々に減少し、昨年は約40件になっている。

・ **2005年SC15C東京大会の開催** TC15の活動に寄与するため、またTC15の中における日本の存在を強める目的で、2005年に旧SC15Cの国際会議を東京で開催した。来日した出席者は日本を含め、オーストリア、ドイツ、スウェーデン、スイス、イギリス、アメリカの7カ国20名以上であり、住友ベークライト（株）のご厚意により同社の会議室をお借りして、2005年（平成17年）5月16日～20日まで5日間の日程で開催した。前半の16～18日の3日間で各WGの打ち合わせを行い、後半の19日にプレナリー会議を行った。プレナリー会議ではagendaの承認から始まり、secretary、chairmanの報告、メンテナンスチーム、ワーキンググループの報告等順調に議事進行が行われ、最後に日本開催における日本NCへの謝辞が述べられ閉幕した。また、プレナリー会議前日の夜には、会議への参加者とその家族を招きソーシャルパーティを日本食レストランで開催し、日本食（お刺

身、日本酒等)を満喫して頂いた。お刺身が苦手な方もいたようだが、日本酒は概ね好き嫌いなく飲まれていたようである。(これは、帰り際にどの出席者も店頭でワイワイ・ガヤガヤ・話しをされていたので、そう感じました。) **chairman** は、パーティの中でマジックを披露し(我々、日本人で言う「宴会芸」です)、場の雰囲気を和ませ、多才な才能を發揮して頂いた。近くで見ていた方でさえ種も仕掛けもわからない見事な手さばきで、いわずもがな、宴会場は拍手と爆笑の渦に飲み込まれた。

焼き鳥や日本酒が概ね好評であったことや、会議場(天王洲アイル)からの眺めの良さ(晴れた日には富津、木更津あたりまで東京湾が一望できました)は出席者からは非常に好評でした。

最後に SC15C 国際会議を東京で開催し、無事閉幕できたことは、関係者のご協力と多大なご支援の賜と今更であるが感謝している。



プレナリー会議にて



プレナリー会議にて



Chairman のバッキンガム氏による手品



ソーシャルパーティ会場にて